

ウルトラマンレオ 2

daisy

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

地球へ帰ってきたウルトラマンレオ。敵を倒したゲンはトオルと共に時空の裂け目に吸い込まれ……

目次

1. 地球外惑星

1

1. 地球外惑星

満開の桜の下、一人旅立つゲン。

「本当に行つてしまうの？」とあゆみ。

「おおとりさん。私たちはね、もしも、もしもよ。あなたが他の星の人でもちつとも気にしてないのよ」と咲子。

「私の知っているおおとりさんは宇宙人なんかじゃないわ。私たちと同じ血の流れている人間よ」といずみ。

「ありがとう。僕にとつてその言葉は一生忘れることができませぬ。やつと今、この地球が僕の故郷になったのです。だから、青い空と青い海のある故郷を、この目で見て、この手で確かめてみたいんです」。

獅子の瞳を指から外すゲン。

「必ず帰つてきてね」とトオル。

「気をつけてね」と咲子。

「おおとりさん」。

ゲンを追いかけて走り出すトオル。

海まで走って来たトオル。

「おおとりさーん」。

ゲンの乗るヨットに手を振るトオル。

「おおとりさーん」とトオル。

「さようならー」とゲン。

あれから四十年、ウルトラマンレオは地球の近くまで来ていた。

宇宙から地球を見ていると、レオの横を巨大隕石が通り抜け、地球へと落下していった。

レオは直ぐに追い掛け、隕石に光線を放った。

隕石は爆発し、中から地球外生命体が現れた。

生命体は地上に降り立ち、町に火を放った。

燃え盛る建物。

逃げ惑う人々。

レオは生命体に飛び蹴りを浴びせた。

蹠よち跟ちめく生命体。

レオは飛び上がり、レオキックを生命体に浴びせて粉碎する。

そこへ飛んで来る戦闘機。

戦闘機には五十代くらいの男が乗っていた。

その男の名は梅田^{うめだ} トオル。

レオは直ぐに彼だと分かった。

「久し振りだな、トオル。もう四十年になるのか」

「おおとりさん！」

レオはゲンの姿になり、着陸して降りてきたトオルと抱き合った。

「おおとりさん、どうして地球へ？」

「呼ばれたんだ」

「呼ばれたって？」

「誰かにね」

その時、上空に時空の裂け目が現れる。

「え？」

二人の体は宙に浮き上がり、裂け目へと吸い込まれて行く。

「うわ！」

「いてー！」

裂け目に吸い込まれた二人は、どこかの地面へと叩き付けられた。

立ち上がり、辺りを見渡す。

そこへ集まってきた人々。

「あんたら見ねえ顔だな。どこから来た？」

ゲンは上空を指差す。しかしそこに裂け目はなかった。

「ここは地球ですか？」

「地球？ 何だそれは？」

「僕たち、地球って惑星ほしから来たんだ」

「ここは何て言う惑星ですか？」

「ここはイサトって惑星だが、あんたら宇宙人か？」

「イサト……？」

聞かない名だった。

「ここが地球でないのなら僕らは宇宙人になるよ」

「そうか。この惑星には何の用なんだ？」

「用があつて来たわけじゃないんです。時空の裂け目に飲み込まれて、気付いたらここ

へ」

「神隠しにあつたのか。ここじゃ何だ、我々の村へ来い」

ゲんとトオルは村へ案内された。